

ドイツの言語と文化 第12回 文化パート7：学生発表第2回

範囲：教科書第十章 (S. 141 - 156)

第11回から引き続き学生発表の回であり、事前に決めた分担の通り、教科書の内容説明は受講者にやってもらう。やはり、一部の事項に関してのみ、講師から補足しておく。

第十章 経済恐慌の襲来 (S. 141 - 156)

ヤング案反対闘争 (S. 143)

S. 143

・「極右的な大実業家フーゲンベルク」

…**アルフレート・フーゲンベルク** (Alfred Hugenberg) は元官僚の実業家で、クルップ財閥の重役を勤め、その資金を背景に「メディア王」としてジャーナリズムを牛耳っていた人物。ウーファ（映画会社）の社長でもあった。1928年から国家人民党党首。

・「ゼルテに率いられる右翼的行動団体「鉄兜団」」

…**フランツ・ゼルテ** (Franz Seldte) は元将校で、第一次世界大後は退役軍人団体の鉄兜団 (Stahlhelm) の団長として政治活動をしていた。鉄兜団は国家人民党と協力関係にあった（ただし本人の党籍はシュトレゼマンと同じドイツ人民党）。ナチス政権では労働大臣。

・「ライヒスバンク総裁シャハトは、元来民主党出身であったにもかかわらず、このころ急速に右傾化して右翼分子と手を結んでいた」

…**ヒャルマール・シャハト** (Hjalmar Schacht) については S. 150 を参照。

ヒルファーディングとシャハト (S. 148)

S. 149

・「そもそも、マルクス主義経済学は資本主義経済を批判することを主眼としており、それを資本主義国の財政に応用しようとするれば、それはマルクス主義の背後にある正統派経済学の理論を忠実に守ることではあり得ない」

…マルクス『資本論』は、「マルクス主義経済学」の古典とされている一方で、ほとんどが資本主義の分析に当てられており、何をもって「社会（マルクス）主義経済」とするかについてはほぼ書かれていない。また、マルクスが参考にしたのは、アダム・スミスやデイヴィッド・リカードらのイギリス経済学である（ここで「正統派経済学」と呼ばれているもの）。

シュライヒャーの暗躍 (S. 153)

S. 154

- ・「国会はみずからの力で政府を形づくる能力をまったく喪失してしまった」
- …議会のなかに一党で過半数を占める政党がない場合、複数の政党が連立して政権をつくるのが普通である。それができない（連立協議が進まない）場合、ヴァイマル憲法体制では、大統領が首相を決めて内閣をつくることができた。

S. 155

- ・「労働階級を軍の味方につけることが必要であると考えた『革新的軍人』」
- …当時の日本で、ソ連など社会主義を参考にした統制経済を進めようとした官僚を「革新官僚」と呼んでいたのにならった（著者独自の）表現。

連絡先など

講師のメールアドレス：tokan@nifty.com 講師のウェブサイト：<http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のサイト（配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2018/2018sitDeutscheSpracheundKultur.html>